

# 『製品バージョンアップのお知らせ』

## お客様各位

日頃当社製品をご愛飲頂き、誠にありがとうございます。お陰さまで、発売後3年周年を迎え、累計販売数6万袋を越えました。また、定期購入者数が続伸し、殆どの方が長期継続飲用していただいております。これもひとえに皆様のご支援の賜物です。

この度、当社製品をVersion4にアップデートいたしましたので、お知らせいたします。

## [1]原材料の変更

**変更点：乳酸菌(EC-12FA)の配合停止とルミナコイド(発酵性食物繊維)種類の増加・配合比率変更(下記参照)**

この変更は、乳酸菌の経口摂取以上にルミナコイドの強化が、より多くのお客様の課題解決に寄与するとの判断で実施するものです。**なお、この度の変更で味覚が大きく変わることはありません。また価格改定もございません。**

多種多様な常在腸内細菌は、全て相互に複雑に連携して私たちの免疫や代謝など身体的、精神的な健康のバランスを保つ恒常性機能（生物が内部環境を一定に保つ生理的仕組み）に不可欠な働きをしています。

免疫システムは「免疫細胞」と「免疫抑制細胞」の2つの働きでできています。免疫細胞は炎症を起こして病原体などの異物を排除し、免疫抑制細胞はその後の炎症を抑えます。ビフィズス菌（100種類以上存在）や乳酸菌（200種類以上存在）が善玉菌と言われてきた理由の一つが、これらの多くが主に「免疫細胞」側を活性化させるからです。

しかし、直近の調査データによると、日本人成人の47.2%が花粉症を含むアレルギー性鼻炎\*1、約30~40%が生活習慣病\*2、男性の33.0%・女性の22.3%が肥満（BMI25以上）\*3となっています。

日本をはじめ世界の先進諸国で急増するアレルギー疾患や肥満、生活習慣病をはじめ、様々なトラブルや疾患、そして病的な老化は、免疫バランスの乱れ、つまり「免疫抑制細胞」側の不活性からくる慢性炎症と深く関連している可能性が考えられます。

ルミナコイドをもとに腸内細菌が作る短鎖脂肪酸は、免疫と免疫抑制の双方に働きかけますが、特に免疫抑制細胞を増やし活性化させることができると考えられます。私たちが日常で取り組める免疫バランスを整える方法として、多種多様なルミナコイドの摂取が最も効率的であり、科学的・合理的なアプローチです。

失われた免疫バランスを整えることを軸に、より多くのお客様のお悩みの解消、皆様のベネフィットとなることを目指して、今回のバージョンアップを決断しました。

当社製品がお客様のより一層の健康増進の一助になることを願い、今後も改良を続けてまいります。

## [2]パッケージ形状の変更

**変更点：製品パッケージを縦長から横長に改良**

ご愛飲の皆様から頂きました沢山のメッセージを参考に、中身を取り出しやすく、目づ衛生面も考慮に入れ、縦長から横長にパッケージの改良を行いました。従来サイズよりやや大きいサイズになりますが、何卒ご理解賜りますよう、よろしく願いいたします。

今後もマイクロバイーム研究を継続し、より多くの方々の健康増進にお役立てできる、より良い製品をお届けできるよう努めてまいります。引き続き当社製品のご愛顧を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

株式会社Smart Gut ウェルスオンライン

<当社製品Ver4に含有される主なルミナコイド（発酵性食物繊維）>

難消化性デンプン（難消化性再結晶アミロースを含む）、難消化性タンパク質（プロラミン）、難消化性デキストリン、グアーガム酵素分解物、β-グルカン（β-((1,3))-D-グルカン、β-((1,4))-D-グルカン）、セルロース、ヘミセルロース（アラビノキシラン、アラビノガラクトン、アラビノース）、フルクタン（イヌリン、レバン、フラクトオリゴ糖）、キシロオリゴ糖、ガラクトオリゴ糖（3'-ガラクトシルラクトース、6'-ガラクトシルラクトース、大豆オリゴ糖(ラフィノース、スタキオース)）、アカシアガム、ペクチンなど

出典：\*1.厚生労働省健康局がん・疾病対策課平成28年2月3日資料、\*2.厚生労働省「2019年国民健康・栄養調査」、\*3.「厚生労働省「令和3年(2021)人口動態統計月報年計（概数）の概況」